

## 平成26年度 第2回函館市観光アドバイザー会議での各委員からの意見に対する予算措置状況

## ○新幹線関係

発言内容	予算措置状況	対応方針
・新幹線駅から現函館駅への乗り換えをスムーズにするとともに「指宿のたまて箱」のような観光列車を導入すべき。(金道委員)	※他機関の事業	・JR北海道が運行するため、要望活動を行う。 (資料3, 4参照)
・新幹線からアクセス列車への乗り換え需要を調査すべき。(奥平座長)	・なし	・北海道で「北海道新幹線開業後の二次交通動態調査」を実施。(H26年12月発行)(資料5参照)
・東京便が減便なのか、機材の小型化なのか、航空会社の対応を確認すべき。(奥平座長)	・なし	・新幹線の運行スケジュールや開業後の状況により、航空各社で判断されることから、航空会社の発表を待ちたい。
・開業後、何年先まで見据えていくかを考えるべき。(佐藤委員)	・観光アドバイザー会議開催経費 182千円	・アドバイザー会議の中で議論していく。
・新駅からのアクセス列車乗車中に函館の良さを発信していくべき。(尾山委員)	※他機関の事業	・JR北海道が運行するため、要望活動を行う。 (資料3, 4参照)

○MICE関係

発言内容	予算措置状況	対応方針
<p>・セールスツールが必要であると同時に、行政と民間が一丸となってセールスを行っていくべき。 (佐藤委員)</p>	<p>・コンベンション誘致関係経費 3,425 千円 (コンベンション誘致活動費 2,814 千円)</p>	<p>・函館アリーナ等における MICE のセールスについて、共同実施のための予算は計上していないが、観光協会や指定管理者（函館市文化スポーツ振興財団・コナミスポーツ&amp;ライフグループ）との共同実施も検討したい。 (資料6参照)</p> <p>※函館アリーナ等における MICE に特化したものではないが、新幹線機構のシティセールスPTにおいて、共通のセールスツールの作成を検討中。</p>
<p>・廃校が予定されている凌雲中学校を陸上競技場のサブグラウンドとして整備することで、第1種に格上げすべき。(奥平座長)</p>	<p>・なし</p>	<p>・教育委員会において活用方法を検討中。</p>

○まちづくり・おもてなし関係

発言内容	予算措置状況	対応方針
<p>・歴史的なものと新しく生まれてきているものを連動させ、街並みをみるだけ、街にいただけ、歩いているだけで、何か感じられるような街並みを作っていくべき。(佐藤委員)</p>	<p>・中心市街地等再生推進費 (経済部予算) 1,158,798 千円</p>	<p>・函館市中心市街地活性化事業において、函館駅前地区から五稜郭地区までの中心市街地を整備(平成27年度は、旧和光ビル跡地の複合ビル「キラリス函館」の建設のほか、駅前通りのアーケード撤去を予定)。 (資料7参照)</p>
<p>・全ての街並みを整備することは難しいが、せめて観光客の動線だけでも重点的に整備すべき。(安井委員)</p>	<p>・新幹線開業時おもてなし経費 4,115 千円 (フラッグ掲出経費 3,401 千円) ※26年度2月補正予算 (27年度繰越実施)</p>	<p>・新幹線開業時のおもてなし事業として、駅周辺、ベイエリア、五稜郭など観光客が多く訪れる場所にて、街路灯へ歓迎フラッグを掲出。</p>
<p>・観光客目線で考え、函館に来て何をするか、というストーリーを考えながら、まちづくりに取り組むべき。(安井委員)</p>	<p>・観光客受入環境整備経費 838 千円 (インバウンドセミナー開催経費 338 千円)</p> <p>・観光ホスピタリティ向上経費 201 千円</p>	<p>・外国人受入にあたり必要な情報を提要するインバウンドセミナーを開催し、受入環境整備を促進。(テーマは未定)</p> <p>・観光客へのおもてなし向上のため観光ホスピタリティ講演会を開催し、市民を含めた市全体のホスピタリティ意識を醸成。</p>

○インバウンド関係

発言内容	予算措置状況	対応方針
・現在休航中のソウル便の再就航を目指すべき。(奥平座長)	・南星海運および大韓航空訪問経費 (港湾空港部予算) 464 千円	・港湾空港部において、大韓航空を訪問し、早期の運航再開を要請。
・LCCを誘致すべき。(奥平座長)	・既定予算内で対応 (港湾空港部予算)	・港湾空港部において、LCC対応予算としては計上していないが、情勢を見て対応を検討。
・外国語表記を増やすべき。(内沢委員)	・観光宣伝印刷物等作成経費 15,942 千円 (パンフレット(繁・簡)作成委託料 2,160 千円)	・外国語表記の印刷物を発行し、インバウンド向けに情報発信を行う。
	・観光ポータルサイト関係経費 12,981 千円 (外国語ページ費用 3,140 千円)	・外国語によるWebサイトでインバウンド向けに情報発信を行う。
		※「指差しメニュー表作成啓蒙パンフレット」は今年度中に完成予定。(資料8参照)
・地域ブランド調査第1位に選ばれたことをインバウンド誘致の宣伝に活用すべき。(渡邊委員)	・なし	・調査結果をチラシやWeb等の媒体でPRするための予算は計上していないが、今後はトップセールス等の場において宣伝に活用したい。

発言内容	予算措置状況	対応方針
<p>・外国人にとって開港後 150 年程度の歴史は珍しいことから、縄文文化などもっとアピールし、南茅部地域へのツアーや交通機関の利便性を考えていくべき。(木村委員)</p>	<p>・なし</p>	<p>・縄文文化に触れるツアー構築や交通機関の利便性向上を目的とした予算は計上していない。</p>
	<p>・海外観光プロモーション実施経費 8,183 千円 (レンタカー周遊モデルコース造成 事業費 1,500 千円) ※26年度2月補正予算 (27年度繰越実施)</p>	<p>・函館～千歳間のレンタカー周遊モデルコース造成事業費の中で、F I T 向けのコースへの組み込みについて検討。</p>
	<p>・規定予算内で対応</p>	<p>・東部4支所との観光振興事務連絡会議や青函圏観光都市会議の中で、縄文文化の活用を検討。</p>
		<p>※26年度に、国のビジットジャパン事業において、著名なジャーナリスト2名を招へいし、縄文文化についての取材を実施。</p>